

## 第4学年A組 国語科学習指導案

授業者 鎌田 雅子  
研究協力者 阿部 昇, 成田 雅樹  
教材分析協力者 大橋 純一

### 1 単元名 読みをつなげ想像して読もう ～一つの花～

### 2 子どもと単元

#### (1) 子どもについて

3年生で学習した「ちいちゃんのかげおくり」では、場面ごとに変化していくかげおくりに着目し、場面と場面とを比べながら主人公の心情を読んだ。4月に学習した「白いぼうし」では、主人公の人柄がクライマックスでの出来事に不可欠であり、作者が意図的に設定した作品の仕掛けの一つであることに気付いた。また、物語の鍵となるものが題名になっている場合が多いことも発見した。ファンタジーの入り口、主人公と登場人物をつなぐ中心的な存在という白いぼうしの役割が分かったことにより、クライマックスへの複数の伏線をより認識しながら読むことができた。主人公同化型の読み方と、物語の構成をとらえ伏線をつなげながら読む俯瞰的な読み方のスイッチを無意識に切り替えながら物語の世界を想像しようとしている子どもたちである。

#### (2) 単元について

本単元では、**物語のハイライト場面を見付け、そこで起きている出来事から分かる強調点や変化の意味を考えると**という資質・能力を高めることを目指す。伏線をとらえてクライマックスで描かれたことを読むことが俯瞰した読みを引き出す。そして主人公の心情や物語の鍵となるものの変容の意味を読むことが、やがて物語の主題を読む力につながると考えるからである。

「一つの花」は3人称客観視点で書かれており、語り手は登場人物の心情に寄り添うことも語ることもほとんどない。しかしながら、戦時中という設定や戦時中と戦後を対比的に描いたエピソードの効果によってメッセージ性の強い作品となっている。淡々と描かれる物語の中で父の言動が読み手の心を引き付ける。子どもたちは「両手を出すことを知らずに過ごすかもしれない」「何も言わずに一つの花を見つめながら」といった父の言動の意味を知らず知らずのうちに考えながら読むであろう。その意味を掘り下げることで、着目した叙述と前後の場面を何度も行き来したり、時、場といった物語の設定を踏まえたりして読む子どもの姿を引き出すことができる。「一つだけ」という言葉で食べ物を欲していた主人公が「一つだけのお花大事にするんだよう」という父の言葉とともに花をもらい喜ぶ姿。娘ではなく一つの花を見つめながら出征する父。最後に父が娘に託すものが他でもない花であることの意味を考える学習を通して、花の象徴性や叙述が暗示するものを読むことに触れることができる単元でもある。

#### (3) 指導について

本単元ではぐくむ資質・能力を高めるために、**物語の鍵となる言葉に着目し、ハイライト場面で起きる変化を前後の場面と関係付けてとらえ、物語の中でのその変化の意味を読む「見方・考え方」**を単元を通して働かせる。

題名や物語の鍵となるものに着目し、一つの花の役割や変化に注目して読むという視点は子どもから出ることが予想される。作品中で何度も出てくる「一つだけ」の言葉や「ちいちゃんのかげおくり」との違いに触れた感想など、既習を意識した考えを賞揚し共有することで、これまでの読み方を活かして本教材と向き合う意識を高める。また、物語の鍵となる言葉を確認した上で、子どもが着目した印象的な叙述を基に学習問題を設定する。娘に一つの花を渡し、その花を見つめながら出征する父の言動の意味を考える時間には、根拠となる叙述のとらえ方の違いを対話を通して浮き彫りにする中で、一つだけ花をあげる行動から思いを託すという意味を子どもが見いだしていく授業を展開したい。「なぜ父の渡す物が花だったのか」という視点で物語を読み始めたとき、読み手は物語の外に立ち位置を移し、花の象徴性を考えることになる。色に着目した「白いぼうし」の読み方で描写を読むと、コスモスの花がモノトーンの世界の唯一の光ともとれる。コスモスに包まれた家からスキップで出かけるゆみ子を描いたエピソードの役割も見えてくるであろう。かけがえのない幸せにあふれる娘の未来の生活を願いながら一つの花を託す父の言動の意味を読むことが、クライマックスと導入部、エピソード等のその前後の場面の伏線をつなげ、物語を豊かに想像しながら読む子どもの姿を引き出すことにつながると期待している。また「ちいちゃんのかげおくり」と比較することで、クライマックスとエピソードを関係付けて読み、物語が一番伝えたいことを考える学習を設定する。本単元での学習経験を、作品中の象徴性の高い言葉に込められた意味や物語の主題を考えながら読むという高学年で目指す読み方を学ぶ布石としたい。

### 3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 物語の展開やクライマックスで起きる中心人物の言動の変化を前後の場面と関係付け、叙述を基に想像して読むことができる。 (C-38, 41, 42, 43, 47)
- (2) 表現技法によって強調される意味や内容を考えることができる。 (C-58, 59)
- (3) 読みと読みとを関係付けながら、進んでよりよい読みを見いだそうとする。 (C-43, 45, 65)

4 単元の構想（総時数 9 時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

場面とともにかわっていくものに気を付けて読もう～ちいちゃんのかげおくり～（3年）  
主人公の人がらを読もう～白いぼうし～

◎本単元で育む主な資質・能力  
物語のハイライト場面を見つけ、そこで起きている出来事から分かる強調点や変化の意味を考える。  
(C-42)

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	(1) 教材文を読み、初発の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の物語の読み方を実践する場となるように、黙読し、感想を書いてから交流する場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になる叙述に触れながら初発の感想を書いたり、友達の感じ方に関心をもって聞いたりしている。(C-65)</li> </ul>
2・3	(2) 物語を通読してクライマックスはどこか話し合い、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの疑問を生かしつつ単元のねらいに迫る学習問題を立てることができるよう、物語の柱となる叙述を出し合いながら物語の構成をつかむ活動を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の構成を理解し、クライマックスとなる場面とその理由を考えている。(C-42)</li> <li>クライマックスとのつながりを意識し書かれてあることを基に問いを考えている。(C-45)</li> </ul>
<p>学習問題 なぜ、お父さんは何も言わずに一つの花を見つめながら行ってしまったのだろうか。</p>			
4	(4) 物語の設定を確かめ、ゆみ子とお母さんの関係を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>時代背景を確かめながらゆみ子と母の関係を読むことができるように、なぜゆみ子は「一つだけちょうだい」という言葉を最初に覚えたのか話し合う場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の設定と、ゆみ子とお母さんの関わりを関係付けて考えている。(C-38・59)</li> </ul>
5	(5) なぜ、お父さんはゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするのか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>娘の将来を案じる父の心情を読むことができるように、「そんなときにきまってする」が指す内容を問う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父の言動からゆみ子に対する父の思いを読み取っている。(C-41)</li> </ul>
6	(6) なぜ、お父さんは何も言わずに戦争に行ってしまったのか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゆみ子の変化に着目して考えることができるように、父がにっこり笑った理由を話し合う場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山場の場面で起きるゆみ子の変化と父の心情の変化を関係付けて読んでいく。(C-43・58)</li> </ul>
7 本時	(7) お父さんが最後に花をあげたことの意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いを託すという読みを引き出すために、大事にされていない花を娘にあげるのとはおかしいのではないかと揺さぶることで花の象徴性に気付くことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クライマックスとエピローグでのコスモスの花の描写を根拠にクライマックスの父の言動の意味を讀んでいる。(C-42)</li> </ul>
8	(8) 「一つの花」の一番伝えたいことは何か話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>クライマックスとエピローグを関係付けて主題を考えることができるように、初発の感想で出された「ちいちゃんのかげおくり」との違いを話し合う場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エピローグの内容に着目し、物語の主題について考えていく。(C-47)</li> </ul>
9	(9) 本単元の学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の鍵である言葉の変化や表現技法に着目して読んだことを意識して学習を振り返ることができるように、今回の単元で特に意識した読み方や初めて用いた読み方は何か確認する場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな言葉に着目してどのように物語を読んだか、物語の読み方に触れて学習を振り返っている。(C-42・43)</li> </ul>

◎本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」  
物語の鍵となる言葉に着目し、ハイライト場面で見つめる変化を前後の場面と関係付けてとらえ、その意味を考える。

物語の一番伝えたいことと、主人公の変化とを関係付けて読もう ～プラタナスの木～

5 本時の実際 (7 / 9)

(1) ねらい 花の描写、「一つだけ」の言葉の差異に着目し、一つの花を娘にあげる父の言動の意味を前後の場面と関係付けながら読むことができる。 (C-42)

(2) 展開

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
2分	<p>① 学習問題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの読みを把握し、意図的指名をしたり読みの変容を看取ったりできるように、前時の最後に学習問題に対する考えを書く場を設定する。</li> </ul>
33分	<p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なぜ、お父さんはゆみ子に花をあげたのだろうか。</p> </div> <p>② お父さんがゆみ子に花をあげた理由を話し合う。</p> <p>A ゆみ子を泣きやませようとして。 B 自分の代わりとして。 C 願いを込めて。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泣きやませるためもあるけれど、それだけならたくさんあげるのではないか。</li> <li>お父さんがあげた花は一つだけ。この世にただ一つのもの。思いが込められている感じがする。これがいっぱいだと思いがギュッと詰まった感じがしない。</li> <li>ゆみ子がにぎっているところからお父さんの思いを受け止めたように感じる。</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コスモスの描写を読む</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はしっぱとかゴミ捨て場とかいらぬものという感じがする。</li> <li>コスモスは隅に追いやられてみんなが存在を忘れていた。戦争中は大事にされないものだった。でも、お父さんはそれをゆみ子に渡した。</li> <li>1輪のコスモスがいっぱい増えてゆみ子の家を包んでいる。父の願いが叶った、平和になったということを表しているのではないか。</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">父の願いを読む</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>喜びなんて一つだってもらえないかもしれないと思っていたけれど、10年後には幸せがあふれている。</li> <li>肉か魚かを選んだり、花に囲まれていたり、スキップをしたり、こういうのがお父さんが願っていた喜びなんだと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>願いを込めて渡したという読みが見えてきたところで、「ゆみ子がにぎっている」「一つの花を見つめながら」「一つだけのお花」の叙述に着目することができるように、願いを込めるに結び付く叙述が他にもないか問う。</li> <li>唯一という「一つだけ」の意味を確かめることができるように、父の「一つだけのお花」に触れた発言をとらえて、父が喜びをいっぱいあげたいと思っていたのだからたくさんあげたら良かったのではないかと投げかける。</li> <li>戦時中の花の価値や時代背景をとらえることができるように、ゆみ子にあげた花の描写から読み取れることを対話を通して明らかにする。</li> <li>最後の別れに花をあげるという行動の意味に目が向くように、お父さんは家族と二度と会えないと悟っていたことを押さえた上で、みんなに見向きもされないコスモスを娘への最後のプレゼントにするのはおかしいのではないかと揺さぶる。</li> <li>戦時中の場面で唯一色彩を放つコスモスに着目し、光や希望といった象徴に気付くことができるように、「白いぼうし」で色に着目して物語のイメージを読んだことを想起させる。</li> <li>娘の将来を案じる台詞やエピローグと関係付けて父の娘への願いを読むことができるように、父が花に願いを込めたという読みを確認した後で、その願いは叶ったと思うか問う。</li> </ul>
10分	<p>③ 自分の考えを書き、学習をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お父さんの願いを掘り下げていく中で、直接的に書いていない花が表すものを様子や色から考えたり、クライマックスと前後の場面を比べて読んだりしたことを価値付け、次の学習につなげる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>物語の鍵である「花」に関わる形象やエピローグでの変化を根拠に、クライマックスでの父の言動の意味を読んでいる。 (C-42) (発言・ノート)</p> </div>